

「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の **竹1** 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

※**濃い赤線の道は**、古図を元に現在の土地の痕跡や、過去の航空写真を参考に記入しました。



36. 五街道の道しるべを巡り歩く その五「竹内街道」 前編

街道シリーズで紹介してきましたが、今回は最後の竹内街道をご紹介します。竹内街道は藤井寺市域を通っていませんが、南河内にとっては非常に重要な街道です。

堺市から松原市、羽曳野市、太子町を通り竹内峠を越えて当麻町の長尾神社付近に達する街道で全長 26 km に及びます。通説では古代の「丹比（たじひ）道」と云われています。

最初の道標は、マップから少し外れるのですが、羽曳野市伊賀にある道標です。民家の庭先に立っている様に見えますが、現在の竹内街道から少し入った旧道沿いになります。（マップの別枠内を参照してください）

東除川を渡り、東へ進むと道がカーブしますが、その右手（南）に立っています。



竹 1



正 面

右 面

左 面

裏 面

右 大坂さかいミチ
左 まきの寺さやま

左 ふじいてら大みね
いせはせつぼ坂

文政十二年

堺施主 神南辺隆光

① この道標は伊賀の通称「五軒家」にあり、文政 12（1829）年に堺在住の神南辺隆光（大道心）が造立寄進したものである。大型の道標で文字も雄大である。北面は竹内街道に面し、内容は街道を東進する人を対象としている。東面は竹内街道を西進する人、および狭山・榎尾山施福寺方面へ南進する人のための案内である。また、西国三十三所の観音霊場である葛井寺・施福寺や、大峰山へ参拝する順礼者の利便も図っている。竹内街道沿いに残る神南辺隆光関係道標 6 基中、年号を刻む唯一のものでもある。

さらに東へと進みます。竹内街道から埴生野の旧中新田に通じる坂道をわずかに登った所の右側に道標が立っています。



東面・正面	西面・裏面	北面・右側	南面・左側
右 なかしんでん はびきやま 道	後援者 新熊庄太郎 松山幸次郎 旭組合 山口幾太郎 今西勝次郎 山口浅吉	七尺幅道を十尺幅道に改修す 昭和五年三月	改修発起人 施主 山本順一郎

竹 2

② 竹内街道から埴生野の旧中新田に通じる坂道をわずかに登ったところの右側にある。昭和5（1930）年3月に地元の有志らが造立したもので、中新田・羽曳山へ通じる小径を拡張整備した記念碑でもある。

造立の時期は新しいが、道標の碑面は江戸時代的な書体で追福供養を目的としたものと思われる。竹内街道沿いの元号を刻む道標中最新のものの。

ここから街道は少しずつ登って行きます。坂を上り切った信号の所に高燈籠が立っています。



竹 3

元野中寺伽藍礎石

歴史街道説明内容（抜粋） この街道に面し蘇我馬子が建立したと言われる野中寺「中の太子」は太子町の叡福寺「上の太子」、八尾市の勝軍寺「下の太子」とならび聖徳太子ゆかりの寺院です。また、街道付近には南大門が設置されていたと思われ、寺院の建物の寺域を示す伽藍（がらん）の碑が残っています。

高燈籠から 100mほど北に現在の野中寺山門が見えます。



野中寺山門



お染・久松の墓

竹 4

* 野中寺を訪れるお客様は『野崎観音に「お染・久松」の墓がある』と言われる方も多いのですが、野崎観音はあくまで物語の「供養塚」であって、お墓はこちらですとの説明が必要となります。

野中寺霊園には、お染・久松の墓だけでなく気になる墓石があります。



歴代塩野織部の墓碑



竹 4



鬼追（きおい）家の墓

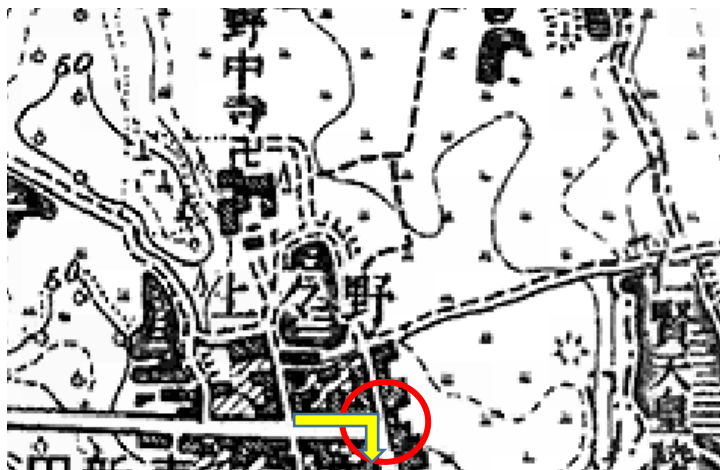
余談 「お染・久松」墓碑へ向かう途中に、立派な「石玉垣」に囲まれている『塩野家』の墓碑があります。社寺や祭礼や縁日など人手の多い所で、見世物の興業や商品などを販売する露天商（テキ屋）のことを『野師【香具師（やし）】』というが、塩野織部は三代にわたり、関西地区の野師の元締めとして君臨していました。彼らの墓は配下の各組の出資による石玉垣に囲まれています。

野中寺近辺に「鬼追」という苗字の家が数軒確認できます。

苗字の由来は。頼光四天王の筆頭として知られ（御伽草子版）、大江山の酒吞童子退治や、京都の一条戻り橋の上で鬼の腕を源氏の名刀「髭切りの太刀」で切り落とした逸話で有名な渡辺綱（わたなべの つな）が、鬼を追い払ったということから渡辺競（わたなべ・きおう）の後裔が競に当て字したものと伝える。大阪府に多い苗字。全国 230 件中 70%が大阪府。

『日本姓氏語源辞典』

高燈籠から信号を渡り東へと進みます。現在は四つ辻になっている左側手前に伊勢燈籠と並んで道標が立っています。また、右側に地藏堂があり、祀られているお地藏様に刻字があります。直進の道路は大正になってからできた道です。当時は丁字路で葛井寺道との分岐点でもあり、竹内街道は右折します。



竹 5

明治41年則図・赤○の地点



正面・南面

左 右
さ 大
か 坂
い 道

西面・左側

右
は せ
天 保 七 申 三 月
田 中 氏

東面・右側

法 名 釈 妙 〇
天 保 六 末 四 月 晦 日
釈 徳 證 文 政 五 年 十 月 十 七 日

③ 竹内街道が屈曲する角にあり、伊勢神宮常夜燈のすぐ横にある。この地点で、葛井寺道が北に分岐する。南面の内容は、軽里方面から高松・カイズリ両池の東堤防を通り、北進してきた人を対象としている。この道標は、天保7（1836）年3月に田中氏が造立したもので、文政5年と天保6年に死去した両親の追福供養を目的としたものと思われる。交差点にあるが塚からの直進道は大正末期に施設されたもので、それまでは三叉路であった。



正面

太 神 宮

右側面

村 中 安 全

左側面

明 治 二 己 巳 年 二 月 吉 日

己巳（つちのとみ）

竹 5

竹内街道と葛井寺道との分岐点にあり、道標と並んで立っている。花崗岩製の神前型で基礎は2段に積む。竿の正面に「太神宮」、右側面に「村中安全」、左側面に「明治二己巳年二月吉日」とあり、明治2（1896）年2月に伊勢参宮の旅人のため、常夜燈として建立されたものです。

道標の筋向いに地蔵堂があります。

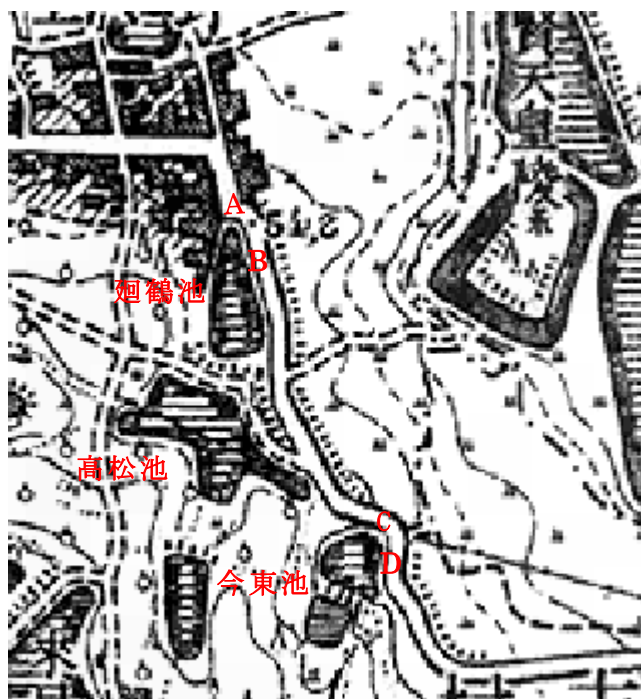


右ハはせみち 左ハなら美ち
為正誓信士菩提乃至法界善利

竹 5

④ 前記の道標の筋向いに、西面する野々上の地蔵堂があり、その中に立つ舟形浮彫自蔵の光背面に道標が刻まれている。持錫持宝地蔵の向かって右側には「右ハはせみち 左ハならミち」とあり、左側には「為正誓信士菩提乃至法界善利」と刻まれている。「はせみち（初瀬道）」は竹内街道のことで、「ならミち（奈良道）」は葛井寺道・大坂街道経由で、長尾街道を指すと思われる。ここから東南に伸びる広い道は大正 13 年に建設されたもの。直進道ができるまでは三叉路突き当りにあったという。

右折して進みますが、ここからの道は本当に竹内街道？と思う位狭い道になります。



A 公園の横を通り



B 廻鶴池の堤を通り



C 石段を上り



D 今東池の堤を通り

竹 6

所々に「竹内街道」と書かれた標識（案内板）があり、迷うことは無いと思います。
 広いバス通り（白鳥通り）に出て東へ進むと、右手に峰塚公園があります。



狭い道からバス通りに出ます



峰塚公園

竹 7



万葉歌碑モニュメント



竹 8

峰塚公園、LIC の前を東に進み、外環状線（170 号線）を渡ります。軽里北の信号を渡ったすぐ左に道標と「順（巡）礼街道」の案内板が立っています。

歩道橋の東側で竹内街道と、東からきた巡礼街道本線（西ルート）が合流し、白鳥通りから右へ入って行きます。





南面・正面

左
さ
か
い
道

右
ふ
ぢ
る
寺

竹 9

西面・左側

世
話
人
当
村
仁
右
衛
門

さ
か
い
丸
市

北面・裏面

天
保
四
癸
巳
年
二
月
建
立



⑤ 旧竹内街道である国道 166 号線と、軽里墓地への参道の交差点の西北隅にある。この参道は、かつて葛井寺へ至る順礼街道の一部であった。この道標は、天保 4 (1833) 年 2 月に、軽墓村 (現軽里) の仁右衛門が世話人となり、堺の料理屋丸市が造立したものである。(巡礼街道とおなじ物です)

横道を少し進み、軽羽迦神社の手前ですが少しカーブした民家の前に『衝破除』が 2 基置かれています。



竹 10

以前、紹介しましたが丁字路等に置かれている「厄除け・災難除け」の『衝破除 (しょうはよけ・しょうはじょ)』です。羽曳野市内 23 基、藤井寺市内で 1 基確認することができましたが、現在その数は減少しているようです。

軽羽迦神社から浅野家住宅（旧オキナ酒造場）前を通ります。間口 60 間、奥行き 30 間余りを占め、市域で最大規模の屋敷地を有しているとのこと。

跡地をリノベーションし、交流拠点として整備する計画のようですが、工事はストップしています。以前は趣のある街道風景だったのですが、残念な状況になっています。



現 在

竹 1 1



趣のある眺め



杉玉・駕籠（長屋門内）



棧瓦葺・煙り抜き



酒造場内

浅野家は、天保時代より人力油絞業を始めており、幕末には軽墓村（現 軽里）の年寄を勤め、また狭山藩札の札元にもなっていた。明治 16 年から平成 12 年までの 120 年間、この地で酒造りを行ってきました。

羽曳野市史

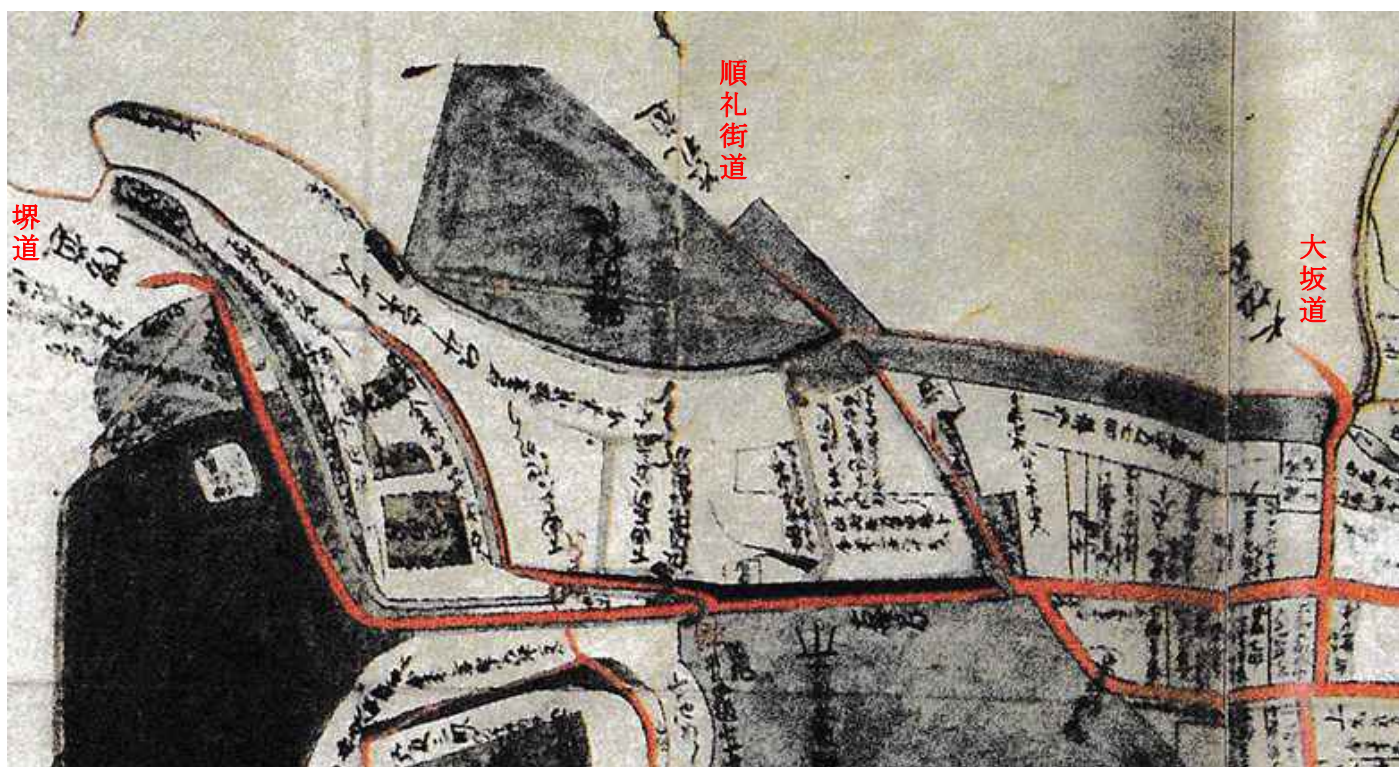
＊ **札元** 豪商などから選任され、藩から一定の扶助を受けて藩札兌換準備金の調達、発行・引き換え業務などに当たる。

一旦、ここで前編を終了し、後編へ続きます。

延宝 5 年の絵図を添付しますので、現在の道と比較して見て下さい。



軽里の旧村絵図 延宝 5 年（1677）



部分拡大

（2024.7 中村）